

■実践事例■

経済社会やビジネスの動向について理解を深め、主体的に学ぶ力とビジネスの実践力の育成を目的とするケーススタディ及び知識構成型ジグソー法に関する指導方法の研究

— 教育課程研究指定校事業（平成25年度）報告 —

鳥取県立鳥取商業高等学校

1. はじめに

本校は、平成25年度に国立教育政策研究所教育課程研究センターから教育課程研究指定事業を受け、研究主題を「経済社会やビジネスの動向について理解を深め、主体的に学ぶ力とビジネスの実践力の育成を目的とするケーススタディ及び知識構成型ジグソー法に関する指導方法の研究」とし、ビジネス基礎で「知識構成型ジグソー法」、マーケティングで「ケーススタディ」の手法を用いて、研究を実施した。

2. 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究主題設定の理由

本校教育の目指す人物像は「地域の産業経済界をリードし、活躍する人」であり、ビジネス教育・資格取得・部活動の3点を柱として、教育の充実を図っている。

しかし、地域経済界をリードするための実践力・応用力の育成については必ずしも十分とは言えないことから、これらの力につながる、経済社会の動向に理解を深めようとする姿勢及び自ら物事を論理立てて考え、表現する力を身に付けさせることが必要であると考え研究主題を設定し、授業実践を通して研究

を進めた。

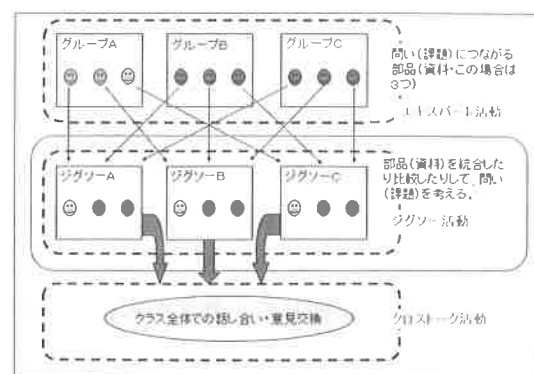
(2) 具体的な取組

ア 教材の作成

【ビジネス基礎】

生徒にとって身近に感じ、取り組みやすい分野を選び、小売業者をはじめとする四つの単元で、知識構成型ジグソー法の教材作成を行った。

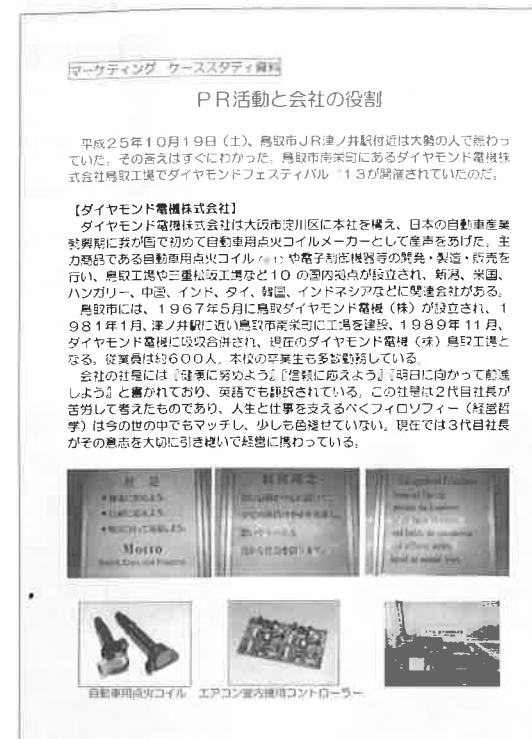
知識構成型ジグソー法とは、その授業のテーマについて、複数の異なる視点で書かれている資料をグループに分かれて読み込み、自分なりに納得できた範囲で他のグループに説明し、交換した知識を組み合わせることでテーマに対する理解を深め、テーマに関連する課題を解決する活動を通して学ぶ、協調的な学習方法の一つである。



知識構成型ジグソー法の活動

【マーケティング】

マーケティングでは、生徒が実際に企業を訪問し、地域経済やビジネスの動向に目を向けながら、インタビューに基づいてケース教材を作成した。授業では、作成した教材を活用し、さらなる理解を深めた。



ケーススタディ資料の一例

イ 評価規準の作成と評価方法

新しい指導方法が紹介されると、どのように評価するかという問題が出てくる。知識構成型ジグソー法の場合は、授業の柱となる課題が具体化されているので、まずは「その課題の答えを自分自身でまとめて表現できるようになったか」が評価のポイントになるであろう。評価規準でいえば、「思考・判断・表現」「技能」にあたる部分になる。

ジグソー活動では、自分しか知らない知識を話さなければならないため、普段はおとなしい生徒も発言をする機会が必ず生ずる。そ

の後のクロストーク活動では各班の考えを、全体に発表する場面もある。生徒がすでに持っている知識や思考力を他者に表現することによって引き出すことができる点は、協調学習の優れた特徴の一つであろう。

知識構成型ジグソー法を活用した授業は、新学習指導要領に即した観点別評価を用いることにより、生徒の学習活動をより適切かつ効果的に評価することができる。

知識構成型ジグソー法は、授業の柱となる課題が具体化されているので、「その課題の答えを自分自身でまとめて表現できるようになったか（思考・判断・表現）」が評価のポイントの一つになる。

本研究において、評価を行うにあたり、国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を活用し、評価規準の作成を行った。

関心・意欲・態度	マーケティング活動における販売促進の役割について調べたり、積極的にグループ活動に取り組んでいる。
思考・判断・表現	各種の販売促進活動の相違点、特に役割や目的の違いを考察、意思決定し、他の人に伝えることができる。
技能	新聞広告や折り込み広告などの実物を収集し、得られた情報の持つ意味を読み取り、整理・活用している。
知識・理解	販売促進と他のマーケティング活動との関係などを理解している。

単元の評価規準例（マーケティング）

ここで注意すべき点は、1時間の中で四つすべての評価規準を設定し、そのすべてを評価することは、評価すること自体が負担になり現実的ではないので、生徒の学習状況を的確に評価できるような評価規準、評価方法を選ぶことが不可欠である。

ウ 授業研究の実施

知識構成型ジグソー法及びケーススタディを活用した言語活動の充実を図るため、グループでの学習活動を積極的に取り入れ、思考力・判断力・表現力を身に付けることが出来るよう、次の活動に主眼を置き授業実践を行った。

①ビジネスに関する資料などに基づいて、自分の考えをまとめる活動（思考力・判断力の育成）

グループでの学習活動を行う前に、学習内容の資料などを読み取り、いくつかの質問に答える形で、その読み取った資料についての考えをまとめる力の育成を図った。知識構成型ジグソー法では、期待される結論の要素に近づく資料・設問作成を心がけ、ケーススタディでは、様々な考えが出てくる設問を準備した。



グループ活動の様子

②自分の考えを他者に伝え、課題解決に向けて意見交流や考察する活動（表現力の育成）
グループでの学習活動では、自分の考えを伝えることで、適切に表現する力を高めるとともに、他者の考えを導いたり整理しながら課題解決に向けてのディスカッションや考察・探究が進むようにした。授業の実践にあたり、生徒同士で役割を分担し、積極的に意見交換ができるように配慮した。

また、自分と異なる考えを比較することでより自分の考えを深め、論理的な思考力の向上を図るようにした。さらに、これらのグループ活動を通し、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、仲間と協調・協力する姿勢を養うように工夫した。



プレゼンの様子

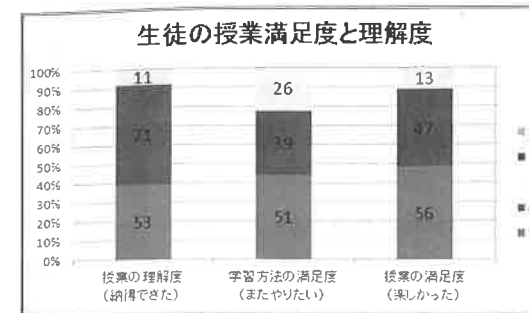
エ 生徒へのアンケート調査

授業実施後、知識構成型ジグソー法及びケーススタディを用いた授業について、授業の満足度（楽しかったか）及び学習方法の満足度（またやってみたいか）、授業理解度（自分で納得できたか）のアンケート調査を実施した。肯定的な意見が大部分を占め、90%近い生徒が授業内容を理解できたと答えている。

指導方法を工夫改善することで学習意欲が増し、定期考査や各種検定の合格状況の結果からも、従来の講義形式の授業に比べ、理解

度が上がっていることが分かった。

しかしながら、すべての授業にこれらの手法を用いて授業を展開することは難しいため、よりよい授業実践を行うためにはさらなる工夫が必要である。



授業アンケートの結果（棒上の数字は人数）
※評価は「5」が高く「1」が低いとした

3. 研究の成果と課題

【成果】

知識構成型ジグソー法及びケーススタディの特徴は、「資料を読み取る」「記録・まとめる」「説明する」「聞く」「討論する」といった言語活動が含まれていることであり、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力、問題解決能力の向上を図ることができた。また、新しい授業形態を取り入れることにより、生徒は従来の講義中心型の授業に比べ、授業への興味・関心がより高まり、意欲的に取り組む等の変容が見られた。

また、ケーススタディでは、生徒が実際に企業を訪問し、インタビューに基づいてケース教材を作成することで、経済社会やビジネスの動向について理解を深めることができた。

二つの手法を用いた授業においても、個々の生徒に役割が与えられるため、主体的・積極的に学習に参加する環境になり、言語活動が活性化される。学習を通して生徒からは、「役割がはっきりしていたので、責

任感が生まれた」、「人前で話すのでコミュニケーションの力が付くと思う」、「チームワークの大切さを感じた」、「自分の意見を持ち、それを相手に伝えることができるようになることは、将来あらゆる場面で生きてくると思う」といった声が上がった。

知識構成型ジグソー法およびケーススタディを活用した言語活動を取り入れることにより、生徒は主体的にグループ活動に取り組むことができた。発表の際には、どのようにすれば相手に分かりやすく伝えることができるか等、聞く側の立場に配慮した取組が見られた。自分の考えをまとめ、表現する過程を通じ、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力、問題解決能力の向上を図ることができた。

【課題】

知識構成型ジグソー法を活用した授業を行うにあたって、発問方法を精選するとともに、その授業実践の最後に求める答えの要素は何かを、予め十分に検討しなければならない。

また、知識構成型ジグソー法とケーススタディでは、発問の意図が十分に伝わらないと、生徒は考えにくくなり授業が進まない場合もあるので、入念な事前の検討が必要である。

4. おわりに

本研究において、生徒一人ひとりが自分の考えをまとめ論理的に表現することによって、他者の考えとの共通点や相違点を意識しながら学び合う、言語活動によるいきいきとした授業の実施といった成果が得られた。引き続き研究を進め、教室内での学びに、より専門性を持たせ、地域経済やビジネスの動向について考察させるため、二つの手法を活用し、さらなる授業改善に取り組んでいきたい。